

**宍粟市高齢者福祉計画及び
第 9 期宍粟市介護保険事業計画策定にかかる
在宅介護実態調査**

【調査結果 概要版】

令和 5 年 6 月

宍粟市

目次

調査実施の概要	1
調査結果からの考察	2
1 在宅生活継続のための支援・サービスの検討	2
2 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討	3
3 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討	3
4 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討	4
5 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討	4
在宅介護実態調査結果（考察からの抜粋）	6
1 在宅生活継続のための支援、サービスの検討 関係	6
【問A10】 終末期（人生の最期）を過ごしたい場所	6
【要介護度別・施設等検討の状況】	7
【要介護度別・介護者が不安に感じる介護】	7
【認知症自立度別・介護者が不安に感じる介護】	9
【要介護度別・サービス利用の組み合わせ】	10
【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ】	11
【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）】	12
【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護4以上）】	12
【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（認知症Ⅲ以上）】	13
【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）】	13

	【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護4以上）】	14
	【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（認知症Ⅲ以上）】	14
2	仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討	15
	【要介護度別・就労継続見込み（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）】エラー! ブックマ	
	クが定義されていません。	
	【問B10】 主な介護者の就労継続の可否に係る意識.....	16
	【就労継続見込み別・介護のための働き方の調整（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）】	
		18
3	保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討	19
	【要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】	19
4	将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討.....	20
	【要介護度別・家族等による介護の頻度（その他世帯）】	20
	【要介護度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）】	20
	【要介護度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）】	21
	【要介護度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）】	21
5	医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討 関係.....	22
	【問B5】 主な介護者が行っている介護	22
	【要介護度別・★訪問診療の利用割合】	23
	【★訪問診療の利用の有無別・サービス利用の組み合わせ（要介護3以上）】	24

調査実施の概要

1 調査の目的

宍粟市では、高齢者の健康づくり・介護予防の推進及び介護保険事業の円滑な実施を目的に、令和6年度から令和8年度までを期間とする「宍粟市高齢者福祉計画及び第9期宍粟市介護保険事業計画」の策定を進めています。

この計画を策定するにあたり、「高齢者等の在宅生活の継続」、「介護者の不安の軽減」等のテーマを基に分析を進め、今後の介護サービスのあり方を検討するため、「在宅介護実態調査」を実施しました。

2 調査の実施方法と配布・回収状況

- 調査地域：宍粟市内全域
- 調査対象者：宍粟市に居住し、在宅で生活している要支援・要介護認定を受けている者のうち、更新申請・区分変更申請に伴う認定調査を受けた者
- 調査項目：国が示す調査票のうち、基本調査項目（11問）、オプション項目（9問）、市独自の調査項目（2問）
- 抽出方法：層化無作為抽出法による抽出
- 調査期間：令和4年12月9日～令和5年1月10日
- 調査方法：無記名式で、郵送配布・郵送回収又は電子回答
- 回収状況：配布数1,000、有効回収数625、回収率62.5%

3 報告書の見方について

- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても同様です。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- 図表中の「N（number of case）」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。

調査結果からの考察

1 在宅生活継続のための支援・サービスの検討

「終末期はどこで過ごしたいですか」の問に、自宅で過ごしたいという意向の回答は、63.7%と高い割合となっています（P6 図表 1-10）。しかし、要介護3以上の要介護者を介護している世帯では、施設等への入所について「検討していない」が46.0%と最も高い一方、「施設等への入所を申請済み」と回答した世帯は36.6%と高くなっています（P7 図表 1-2）。

また、主な介護者が不安に感じる介護等については、要支援1～2では「外出の付き添い、送迎等」、「掃除、洗濯、買い物等の家事」の割合が高い傾向がみられますが、介護度が高くなるにつれ、「認知症状への対応」「夜間の排泄」「外出の付き添い、送迎等」「入浴・洗身」の割合がかなり高くなっています（P8 図表 1-4）。

特に認知症による症状が重度化するほど、夜間や日中の排泄や、認知症状への対応に不安を感じている介護者が多いことから、認知症への理解を深めるための啓発や認知症予防健診や健康教室などによる認知症の早期発見、早期対応の取組を推進することが重要であると考えられます（P9 図表 1-5）。

介護サービスの利用状況では、「要介護1・2」では「通所系のみ」が48.3%と最も割合が高く、「要介護3以上」では「未利用」が21.8%と最も高くなっており、次いで「通所系のみ」、「訪問＋通所」となっています（P10 図表 1-6）。

また、認知症による症状の重度化に伴って、「通所系のみ」、次いで「訪問＋通所」の利用割合が高くなっています（P11 図表 1-7）。

「要介護3以上」及び「認知症自立度Ⅲ以上」におけるサービスの組み合わせと施設等への入所検討の状況から見えてくることは、「通所系・短期系のみ利用」されている場合ほど、施設への申請済みの割合が高いこと、「訪問系を含む組み合わせ」を利用されている世帯では、入所を検討していない割合が高い状況となっています（P12～14 図表 1-10～1-15）。

在宅生活を可能にするためには、利用するサービスの組み合わせ等により介護者の不安や心身の負担を軽減すること、さらには認知症に対する理解を深めることが重要であると考えられます。

医療・介護・保健福祉サービスの連携、認知症サポーターの養成、オレンジカフェや介護者のつどい、徘徊高齢者等家族介護支援サービス事業、徘徊高齢者等見守り SOS ネットワーク事業等をさらに推進しながら、介護者の負担を軽減できるようなサービスを充実させることが重要であると考えられます。

※「認知症状（調査票項目表示）」は「認知症による症状」を意味

※単計・・・資料 単純集計版「在宅介護実態調査の集計結果」

2 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討

介護者の就労継続の可否に関する問で、「問題はあるものの、何とか続けている」との回答は44%と割合が多く、「続けていくのはやや難しい、かなり難しい」の回答を含めると60%を超える割合となっています（P15 図表 2-10）。就労継続見込み別介護者が不安に感じる介護をみると、「問題はあるものの、何とか続けている」、「続けていくのはやや難しい、かなり難しい」の層が不安に感じている介護は「認知症状への対応」が多く、「夜間の排泄」や「日中の排泄」も多い傾向がみられます（P17 図表 2-15）。

介護サービスに対するニーズは、要介護者の状況だけでなく、介護者の就労状況等によっても異なると考えられます。介護者の多様な就労状況に合わせ柔軟な対応が可能となる訪問系サービスや通所系サービスとの組み合わせのみならず、地域の支え合いなどのインフォーマルなサービスを含めた包括的サービスを活用することが、仕事と介護の両立を継続させるポイントになると考えます。

また、介護のための働き方の調整については、「問題はあるものの、何とか続けている」、「続けていくのはやや難しい、かなり難しい」の層においては、「労働時間を調整しながら働いている」割合が多く（P18 図表 2-24）、企業においても介護等の時間的制約を持ちながら働くことが可能な職場環境づくりを進めていくことが、介護に直面した職員の離職防止にもつながると考えられます。

※クロス計・・・資料 クロス集計版 「在宅介護実態調査の集計結果」

3 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討

要介護度別の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスをみると、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」「配食」「見守り、声かけ」「外出同行（通院、買い物など）」のニーズが高い傾向がみられました（P19 図表 3-9）。

財政負担の増加や介護職員の不足が深刻化する中で、全ての支援・サービスの提供を可能にしていくことは困難が想定されます。ただ、「外出に係る支援・サービスの充実」は、在宅生活に欠くことができない「買い物」や「通院」、高齢者同士のつながりである「サロンなどの定期的な通いの場への参加」などとの関係が深いことから、重要であると考えられます。

本市では現在も持続可能な公共交通サービスを推進しているところですが、1日の運行数やルートなどをみると、買い物などを目的とした利用には向いていない地域もあることから、移動販売車と公民館等の通いの場を上手くマッチングさせるなど、さまざまな既存の取組や資源を組み合わせ、調整することが重要であると考えられます。

4 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討

中重度の要介護者について、「単身世帯」や「夫婦のみ世帯」では、介護度の重度化に伴い、「訪問系を含む組み合わせ」のサービスの利用が増加する傾向がみられました(P20, 21 図表 4-7, 8)。今後も単身世帯及び夫婦のみ世帯の増加が見込まれており、それに伴い、訪問系サービスの需要も増加すると推測されるため、訪問系サービスの整備が重要であると考えられます。

同居の家族がいる「その他世帯」では、「通所系・短期系のみ」のサービス利用が65.1%、要介護3以上で49.0%と高い割合となっています。(P21 図表 4-9)。「その他世帯」では、他の世帯類型と比較して、要介護1以上における家族・親族による介護が「ほぼ毎日」の割合も多くみられ(P20 図表 4-6)、介護から一時的に離れ、介護者自身の心身のケアを大切にする必要もあることから、「通所系」や「短期系」の利用が多くなっていると考えられます。

中重度の要介護者がいる「夫婦のみ世帯」「その他世帯」であって、介護保険サービスを利用していない世帯もあり、家族等の介護者の心身の負担が大きくなることが懸念されるため、必要に応じて介護保険サービスの利用に関する情報提供を行うことなども重要になってくると考えられます。

5 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討

「主な介護者が行っている介護」(P22 図表 2-5)をみると、「医療面での対応」は11.3%でした。また、要介護度別の「訪問診療の利用の有無」をみると、要介護度の重度化に伴い、訪問診療の利用割合が増加する傾向がみられました(P23 図表 5-6)。

「訪問診療の利用の有無別のサービス利用の組み合わせ」をみると、訪問診療を利用しているケースでは、訪問診療を利用していないケースと比べて「訪問系のみ」や「訪問系を含む組み合わせ」を利用している割合が多い傾向がみられました(P24 図表 5-7)。

今後は、人口動態からも医療ニーズの高い中重度の要介護者の増加が見込まれます。

このことから、訪問診療や訪問看護など在宅療養者の医療ニーズに対応したサービスの充実が重要であると考えられます。

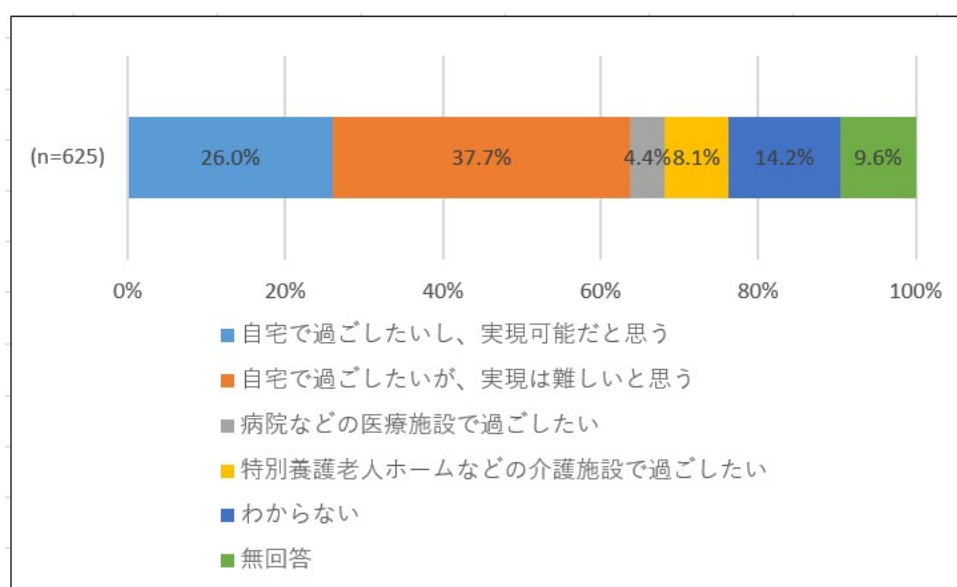
在宅介護実態調査結果（考察からの抜粋）

1 在宅生活継続のための支援、サービスの検討 関係

【問A10】 終末期（人生の最期）を過ごしたい場所

「自宅で過ごしたいが、実現は難しいと思う」の割合が最も高く 38.7%となっている。次いで、「自宅で過ごしたいし、実現可能だと思う（26.7%)」、「わからない（14.6%)」となっている。

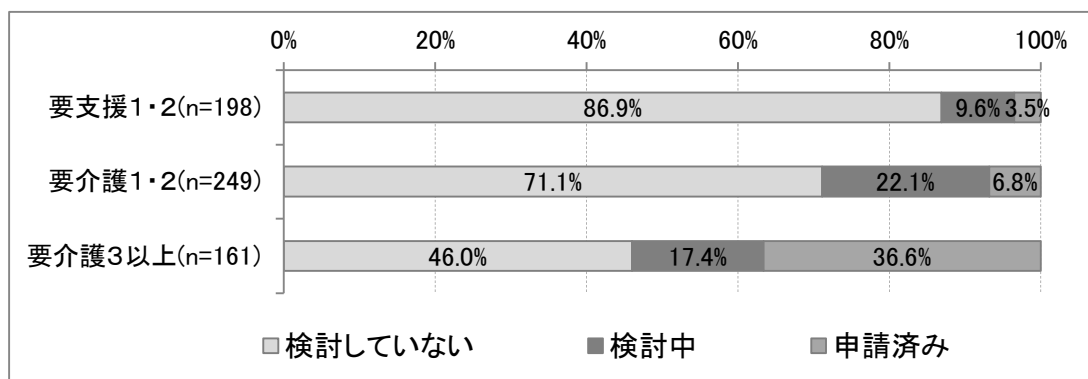
図表 1-10 ☆終末期（人生の最期）を過ごしたい場所（単数回答）



【要介護度別・施設等検討の状況】

施設等の検討状況を二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「検討していない」が86.9%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が9.6%、「申請済み」が3.5%となっている。「要介護１・２」では「検討していない」が71.1%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が22.1%、「申請済み」が6.8%となっている。「要介護３以上」では「検討していない」が46.0%ともっとも割合が高く、次いで「申請済み」が36.6%、「検討中」が17.4%となっている。

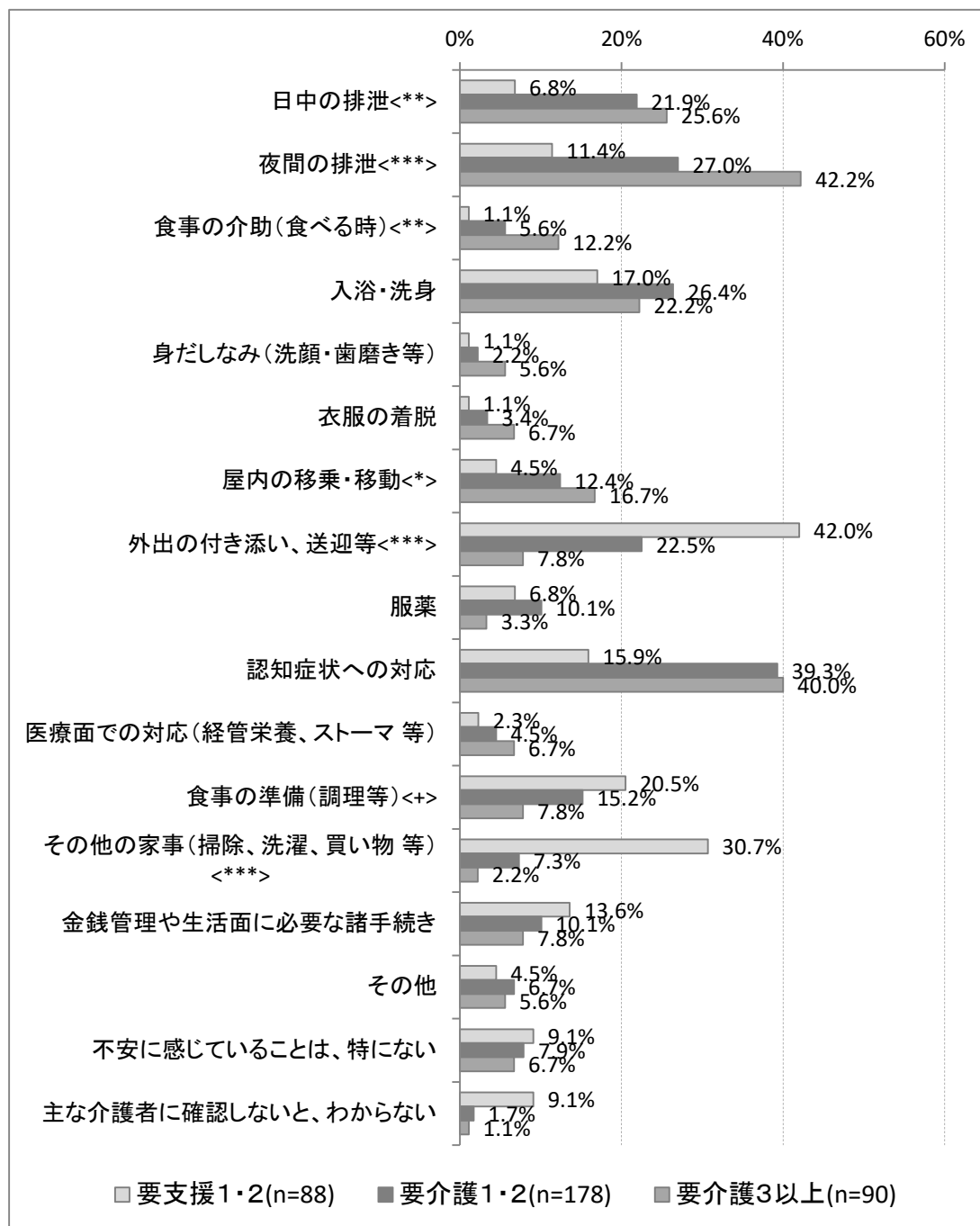
図表 1-2 要介護度別・施設等検討の状況<***>



【要介護度別・介護者が不安に感じる介護】

介護者が不安に感じる介護を二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「外出の付き添い、送迎等」が42.0%ともっとも割合が高く、次いで「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が30.7%、「食事の準備（調理等）」が20.5%となっている。「要介護１・２」では「認知症状への対応」が39.3%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」が27.0%、「入浴・洗身」が26.4%となっている。「要介護３以上」では「夜間の排泄」が42.2%ともっとも割合が高く、次いで「認知症状への対応」が40.0%、「日中の排泄」が25.6%となっている。

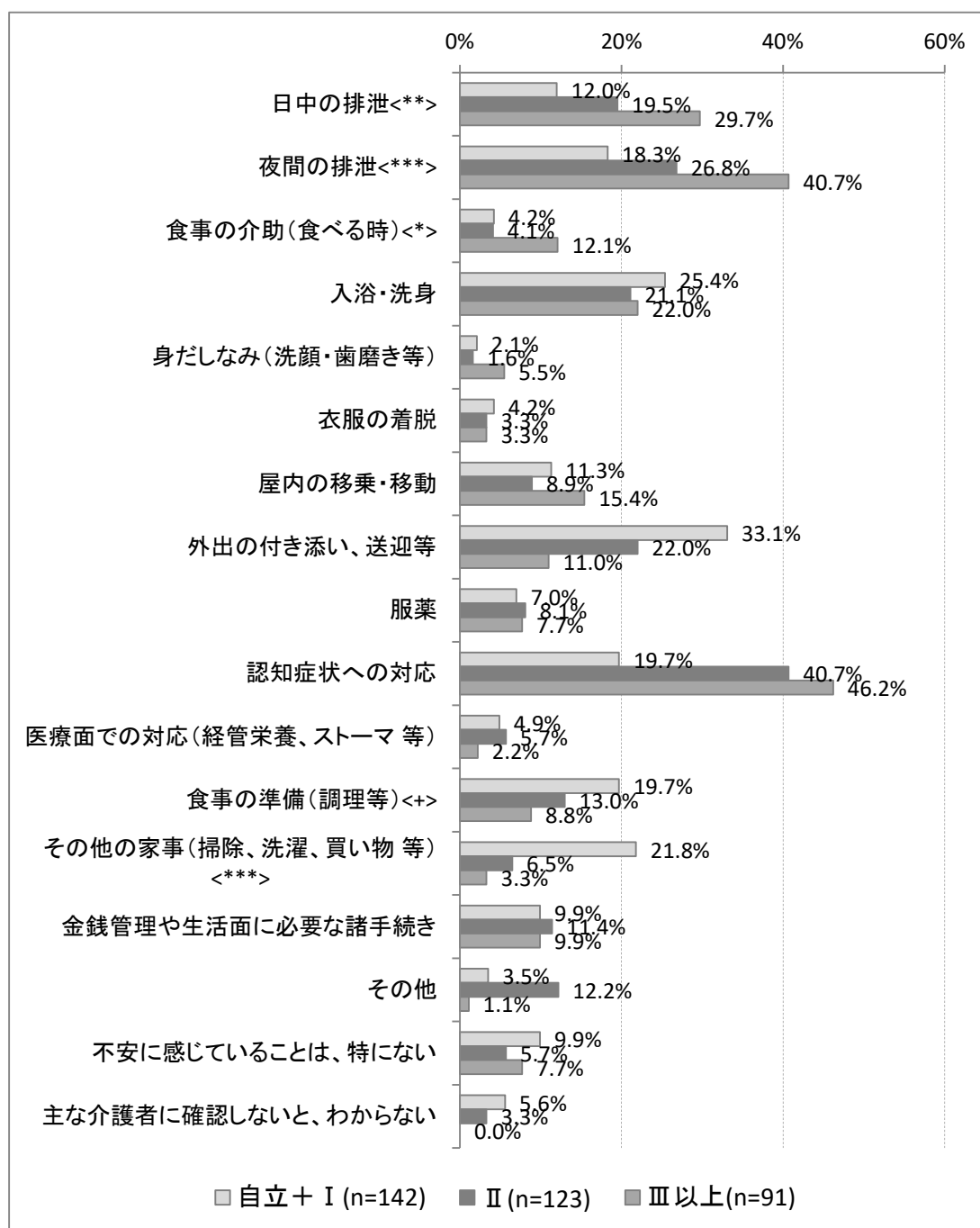
図表 1-4 要介護度別・介護者が不安に感じる介護



【認知症自立度別・介護者が不安に感じる介護】

介護者が不安に感じる介護を認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「外出の付き添い、送迎等」が33.1%と最も割合が高く、次いで「入浴・洗身」が25.4%、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が21.8%となっている。「Ⅱ」では「認知症状への対応」が40.7%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」が26.8%、「外出の付き添い、送迎等」が22.0%となっている。「Ⅲ以上」では「認知症状への対応」が46.2%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」が40.7%、「日中の排泄」が29.7%となっている。

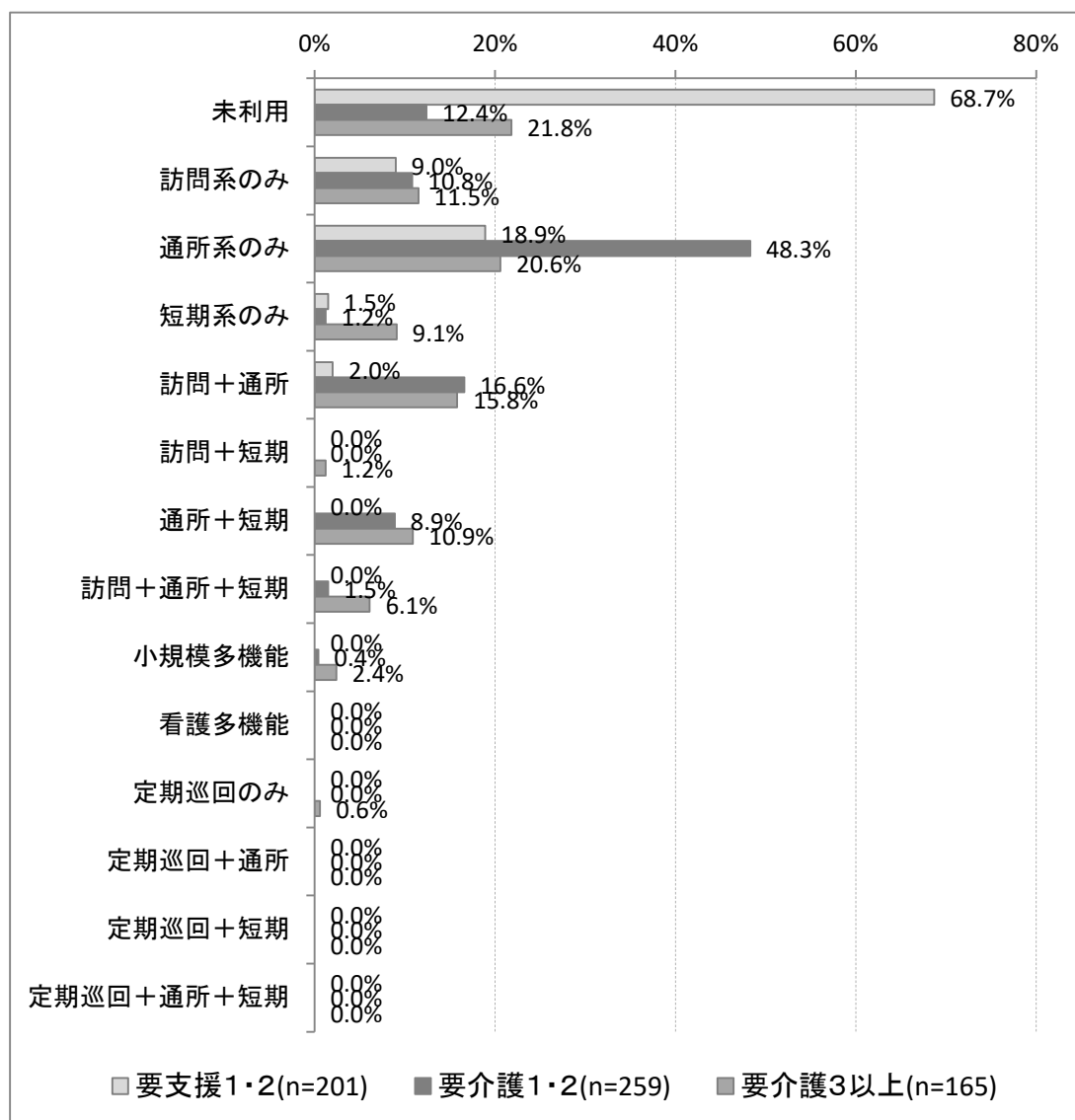
図表 1-5 認知症自立度別・介護者が不安に感じる介護



【要介護度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「未利用」が68.7%と最も割合が高く、次いで「通所系のみ」が18.9%、「訪問系のみ」が9.0%となっている。「要介護1・2」では「通所系のみ」が48.3%と最も割合が高く、次いで「訪問+通所」が16.6%、「未利用」が12.4%となっている。「要介護3以上」では「未利用」が21.8%と最も割合が高く、次いで「通所系のみ」が20.6%、「訪問+通所」が15.8%となっている。

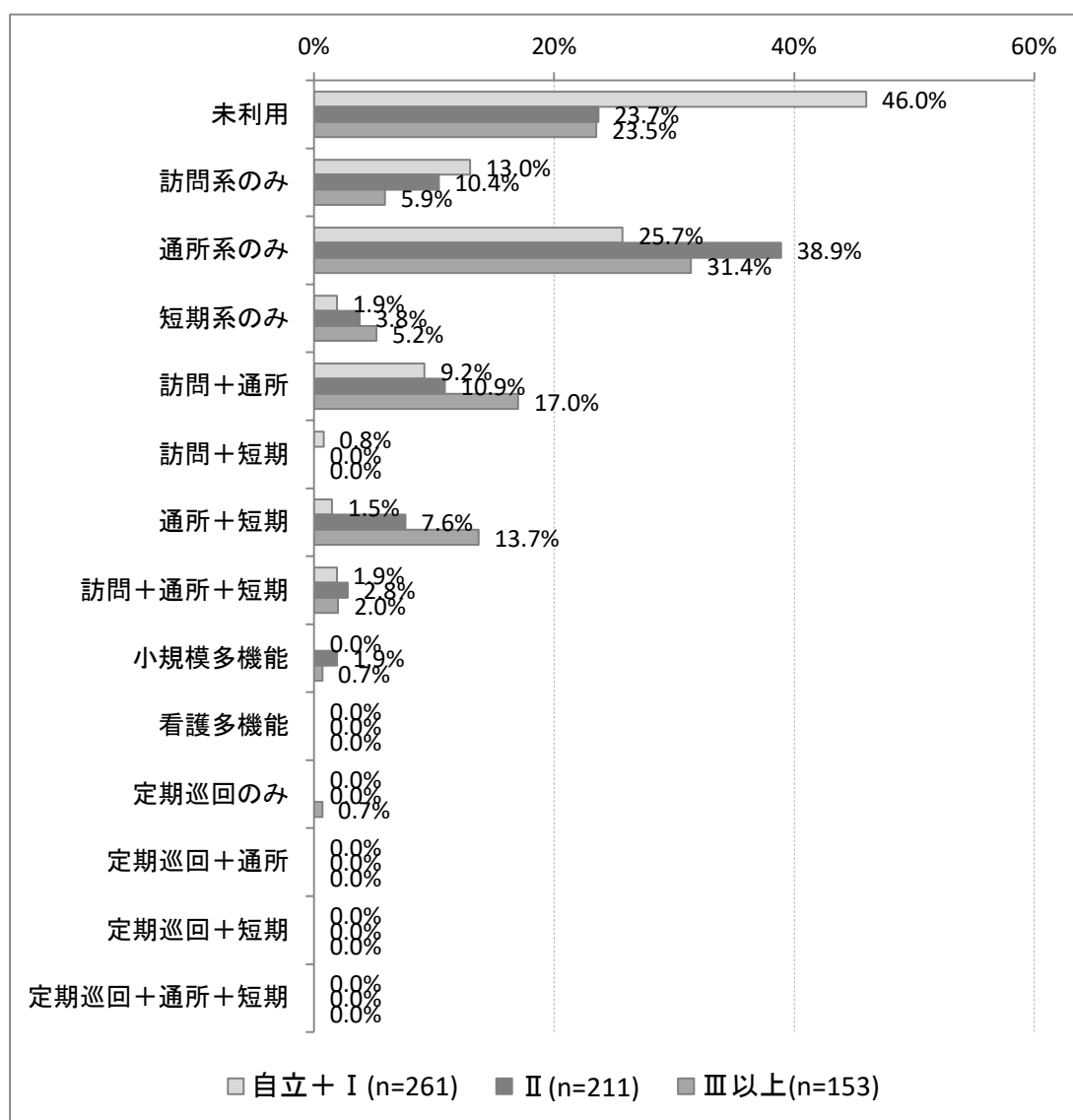
図表 1-6 要介護度別・サービス利用の組み合わせ<***>



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「未利用」が46.0%と最も割合が高く、次いで「通所系のみ」が25.7%、「訪問系のみ」が13.0%となっている。「Ⅱ」では「通所系のみ」が38.9%と最も割合が高く、次いで「未利用」が23.7%、「訪問＋通所」が10.9%となっている。「Ⅲ以上」では「通所系のみ」が31.4%と最も割合が高く、次いで「未利用」が23.5%、「訪問＋通所」が17.0%となっている。

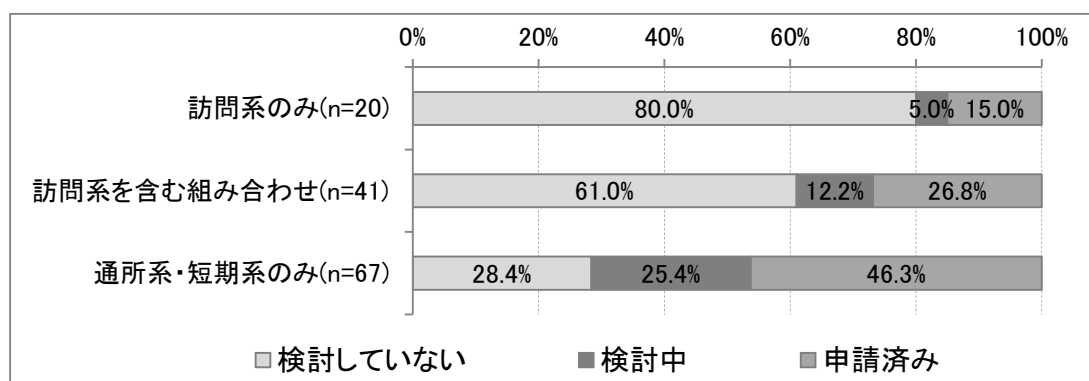
図表 1-7 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ<***>



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）】

施設等の検討状況をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「検討していない」が80.0%ともっとも割合が高く、次いで「申請済み」が15.0%、「検討中」が5.0%となっている。「訪問系を含む組み合わせ」では「検討していない」が61.0%ともっとも割合が高く、次いで「申請済み」が26.8%、「検討中」が12.2%となっている。「通所系・短期系のみ」では「申請済み」が46.3%ともっとも割合が高く、次いで「検討していない」が28.4%、「検討中」が25.4%となっている。

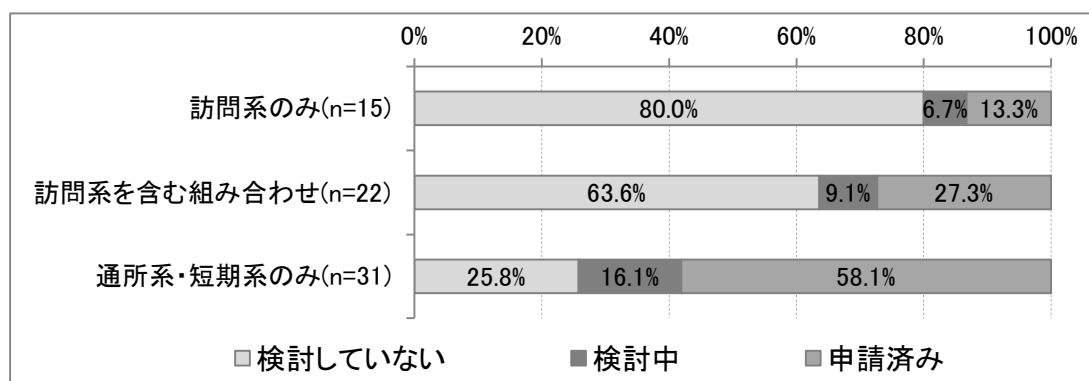
図表 1-10 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）<***>



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護4以上）】

施設等の検討状況をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「検討していない」が80.0%ともっとも割合が高く、次いで「申請済み」が13.3%、「検討中」が6.7%となっている。「訪問系を含む組み合わせ」では「検討していない」が63.6%ともっとも割合が高く、次いで「申請済み」が27.3%、「検討中」が9.1%となっている。「通所系・短期系のみ」では「申請済み」が58.1%ともっとも割合が高く、次いで「検討していない」が25.8%、「検討中」が16.1%となっている。

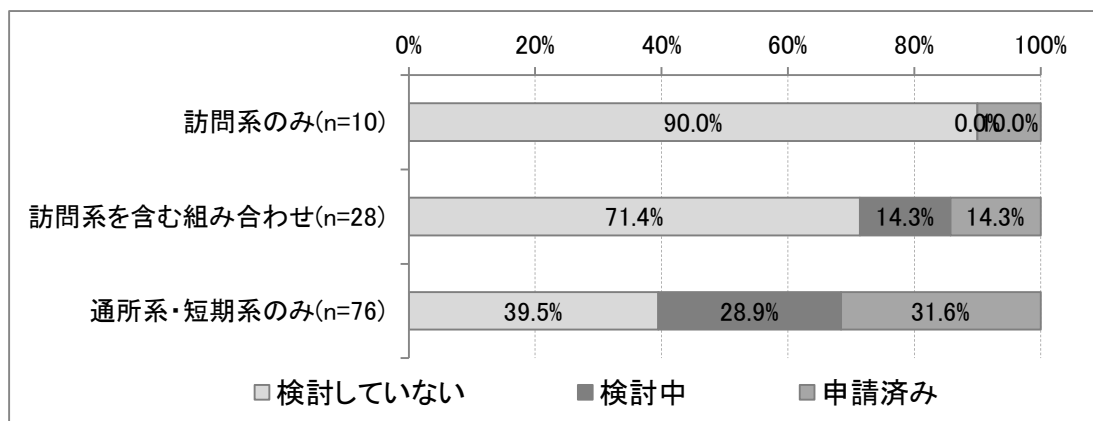
図表 1-11 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護4以上）<*>



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（認知症Ⅲ以上）】

施設等の検討状況をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「検討していない」が90.0%ともっとも割合が高く、次いで「申請済み」が10.0%、「検討中」が0.0%となっている。「訪問系を含む組み合わせ」では「検討していない」が71.4%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」、「申請済み」が14.3%となっている。「通所系・短期系のみ」では「検討していない」が39.5%ともっとも割合が高く、次いで「申請済み」が31.6%、「検討中」が28.9%となっている。

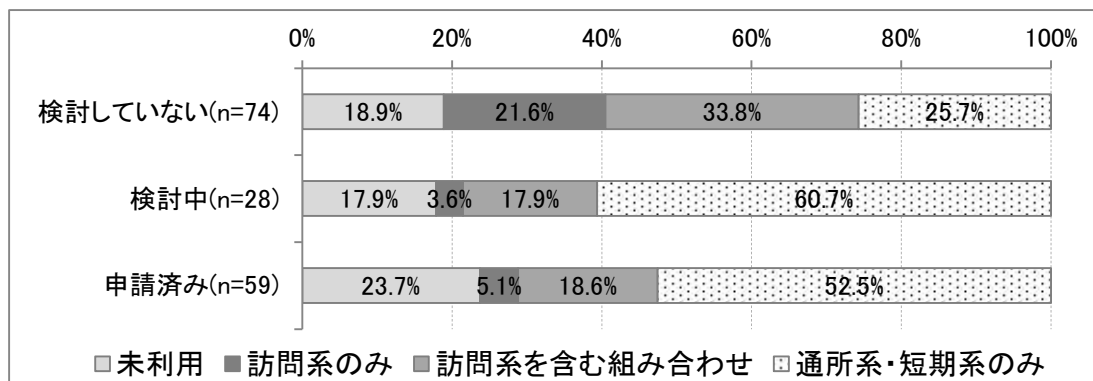
図表 1-12 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（認知症Ⅲ以上）<**>



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）】

サービス利用の組み合わせを施設等の検討状況別にみると、「検討していない」では「訪問系を含む組み合わせ」が33.8%ともっとも割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が25.7%、「訪問系のみ」が21.6%となっている。「検討中」では「通所系・短期系のみ」が60.7%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」、「訪問系を含む組み合わせ」が17.9%、「訪問系のみ」が3.6%となっている。「申請済み」では「通所系・短期系のみ」が52.5%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が23.7%、「訪問系を含む組み合わせ」が18.6%となっている。

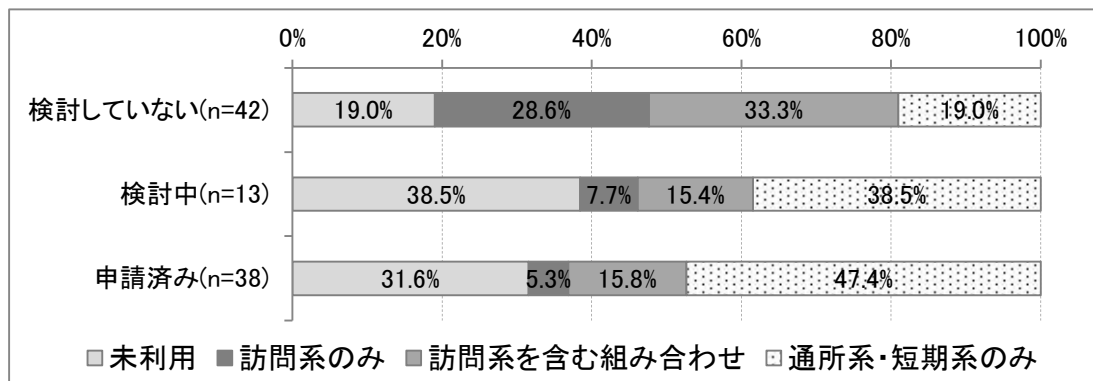
図表 1-13 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）<**>



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護４以上）】

サービス利用の組み合わせを施設等の検討状況別にみると、「検討していない」では「訪問系を含む組み合わせ」が33.3%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が28.6%、「未利用」、「通所系・短期系のみ」が19.0%となっている。「検討中」では「未利用」、「通所系・短期系のみ」が38.5%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が15.4%、「訪問系のみ」が7.7%となっている。「申請済み」では「通所系・短期系のみ」が47.4%と最も割合が高く、次いで「未利用」が31.6%、「訪問系を含む組み合わせ」が15.8%となっている。

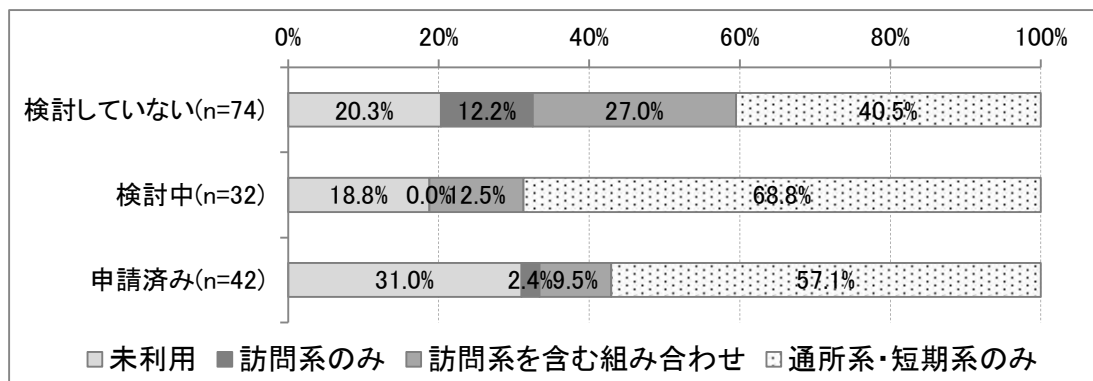
図表 1-14 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護４以上）＜**＞



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（認知症Ⅲ以上）】

サービス利用の組み合わせを施設等の検討状況別にみると、「検討していない」では「通所系・短期系のみ」が40.5%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が27.0%、「未利用」が20.3%となっている。「検討中」では「通所系・短期系のみ」が68.8%と最も割合が高く、次いで「未利用」が18.8%、「訪問系を含む組み合わせ」が12.5%となっている。「申請済み」では「通所系・短期系のみ」が57.1%と最も割合が高く、次いで「未利用」が31.0%、「訪問系を含む組み合わせ」が9.5%となっている。

図表 1-15 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（認知症Ⅲ以上）＜**＞

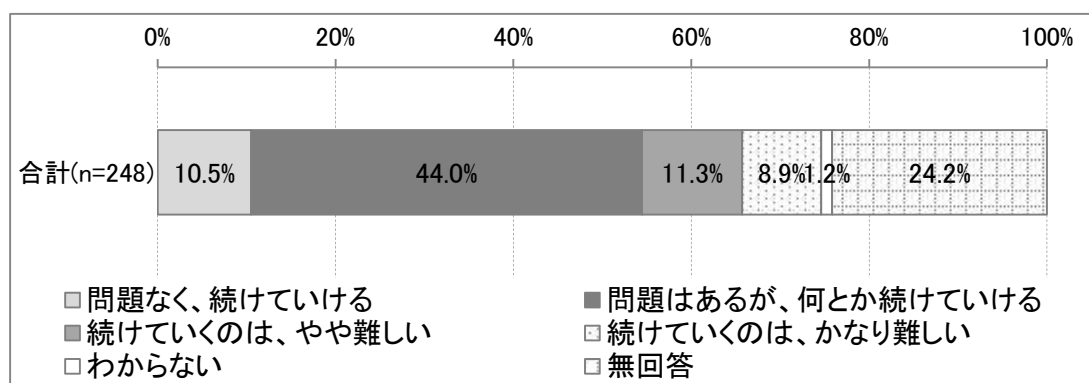


2 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討

【問B10】 主な介護者の就労継続の可否に係る意識

「問題はあるが、何とか続けていける」の割合が最も高く 44.0%となっている。次いで、「続けていくのは、やや難しい（11.3%)」、「問題なく、続けていける（10.5%)」となっている。

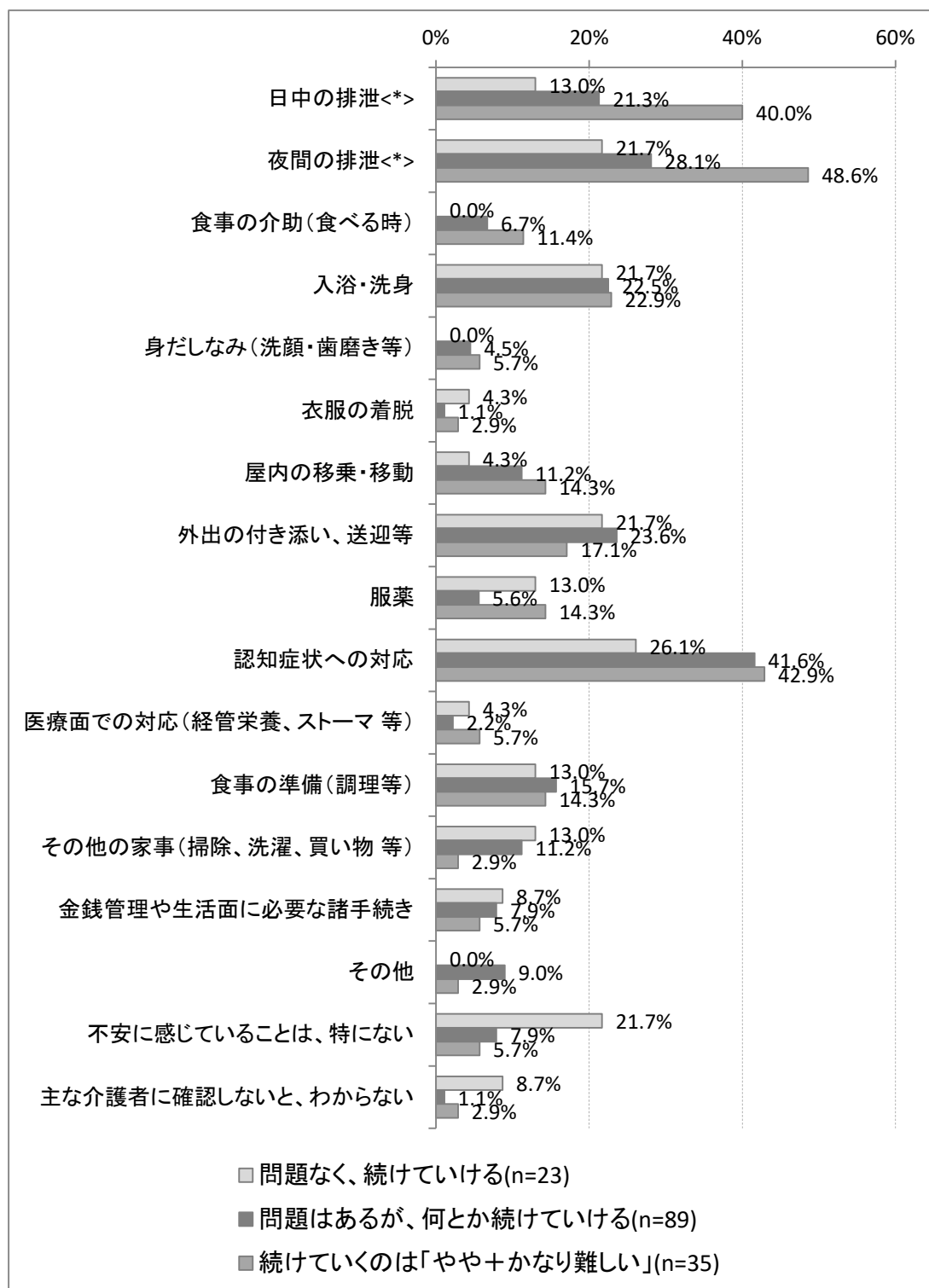
図表 2-10 主な介護者の就労継続の可否に係る意識（単数回答）



【就労継続見込み別・介護者が不安に感じる介護（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）】

介護者が不安に感じる介護を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「認知症状への対応」が26.1%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」、「入浴・洗身」、「外出の付き添い、送迎等」、「不安に感じていることは、特にない」が21.7%、「日中の排泄」、「服薬」、「食事の準備（調理等）」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が13.0%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「認知症状への対応」が41.6%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」が28.1%、「外出の付き添い、送迎等」が23.6%となっている。「続けていくのは「やや＋かなり難しい」」では「夜間の排泄」が48.6%ともっとも割合が高く、次いで「認知症状への対応」が42.9%、「日中の排泄」が40.0%となっている。

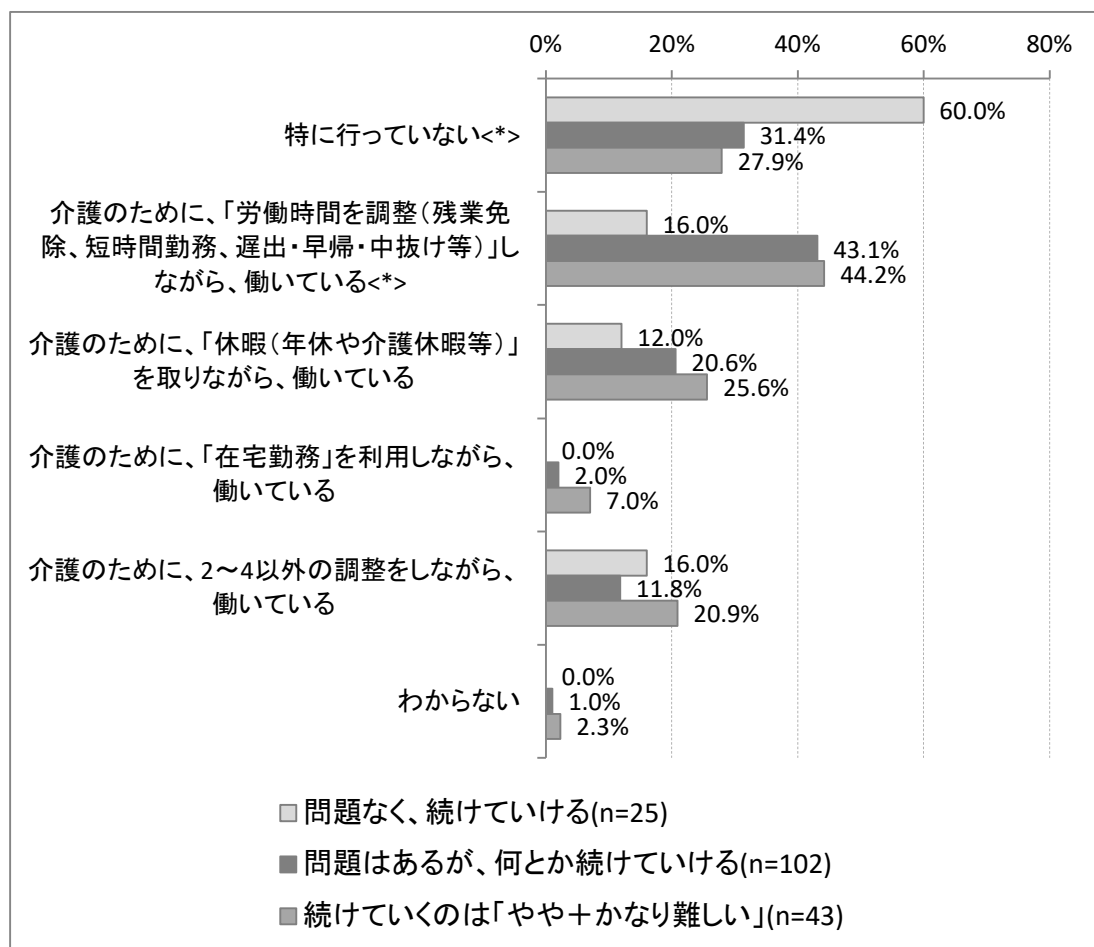
図表 2-15 就労継続見込み別・介護者が不安に感じる介護（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



【就労継続見込み別・介護のための働き方の調整（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）】

介護者の働き方の調整の状況を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「特に行っていない」が60.0%と最も割合が高く、次いで「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」、「介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている」が16.0%、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が12.0%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が43.1%と最も割合が高く、次いで「特に行っていない」が31.4%、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が20.6%となっている。「続けていくのは「やや＋かなり難しい」では「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が44.2%と最も割合が高く、次いで「特に行っていない」が27.9%、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が25.6%となっている。

図表 2-24 就労継続見込み別・介護のための働き方の調整（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）

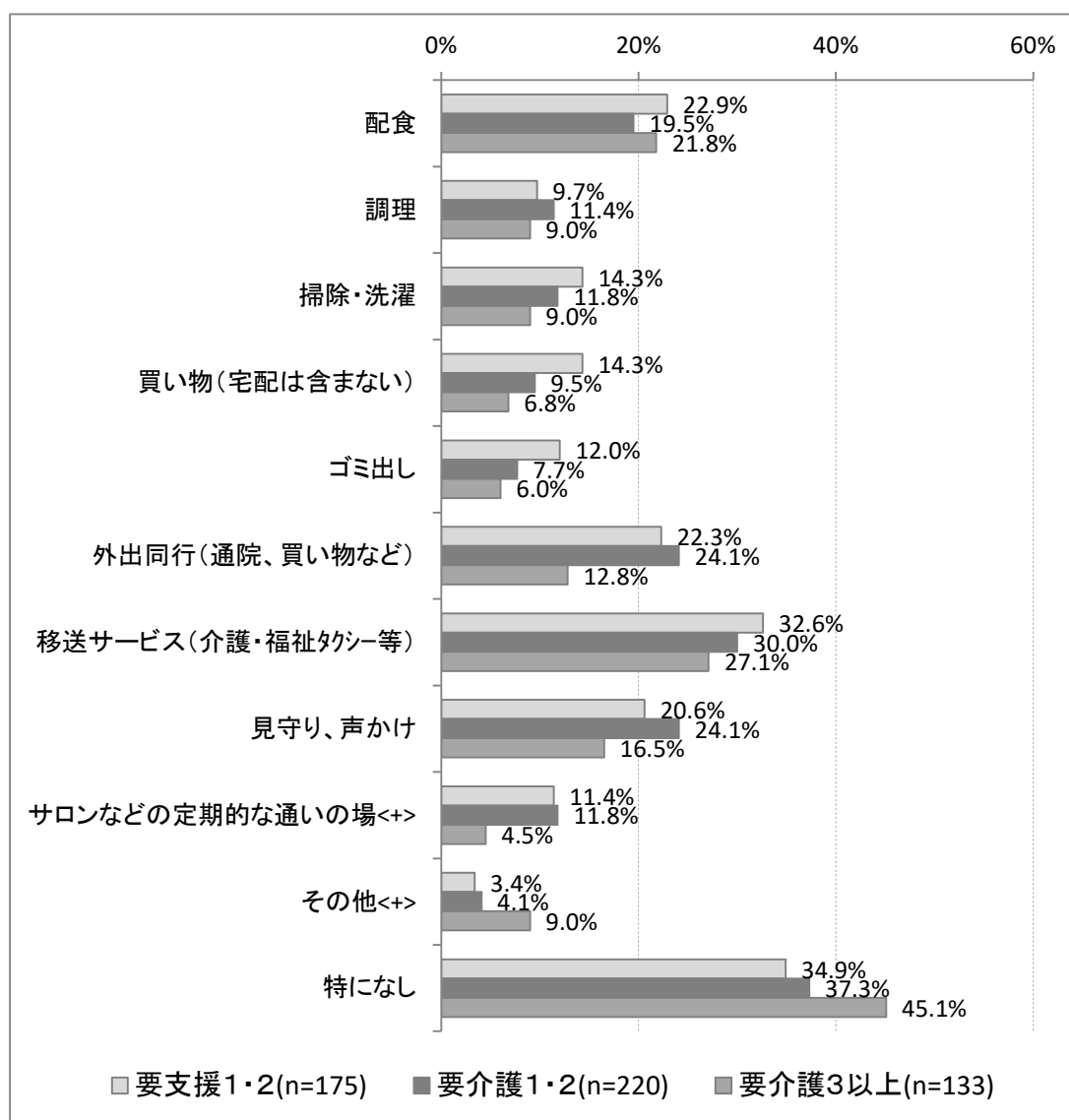


3 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討

【要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】

保険外の支援・サービスの必要性を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「特になし」が34.9%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が32.6%、「配食」が22.9%となっている。「要介護1・2」では「特になし」が37.3%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が30.0%、「外出同行（通院、買い物など）」が24.1%となっている。「要介護3以上」では「特になし」が45.1%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が27.1%、「配食」が21.8%となっている。

図表 3-9 要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

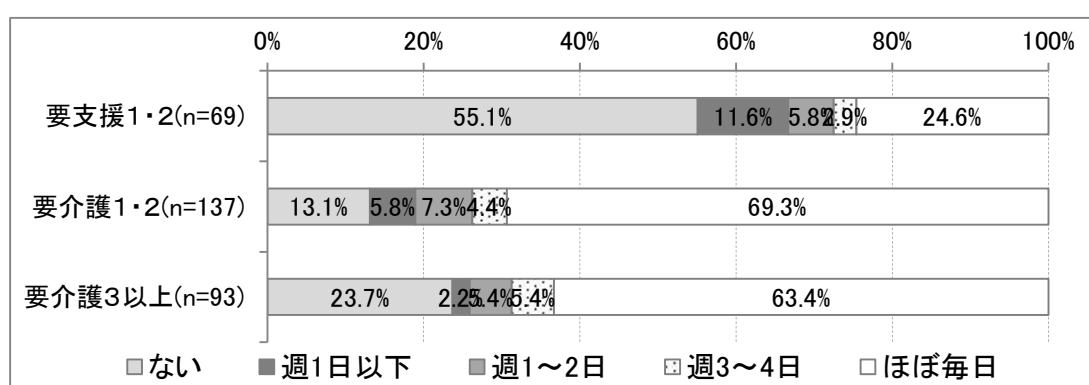


4 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討

【要介護度別・家族等による介護の頻度（その他世帯）】

ご家族等の介護の頻度を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「ない」が55.1%と最も割合が高く、次いで「ほぼ毎日」が24.6%、「週1日以下」が11.6%、「週1～2日」が5.8%、「週3～4日」が2.9%となっている。「要介護1・2」では「ほぼ毎日」が69.3%と最も割合が高く、次いで「ない」が13.1%、「週1～2日」が7.3%、「週3～4日」が4.4%となっている。「要介護3以上」では「ほぼ毎日」が63.4%と最も割合が高く、次いで「ない」が23.7%、「週1～2日」が2.5%、「週3～4日」が5.4%となっている。

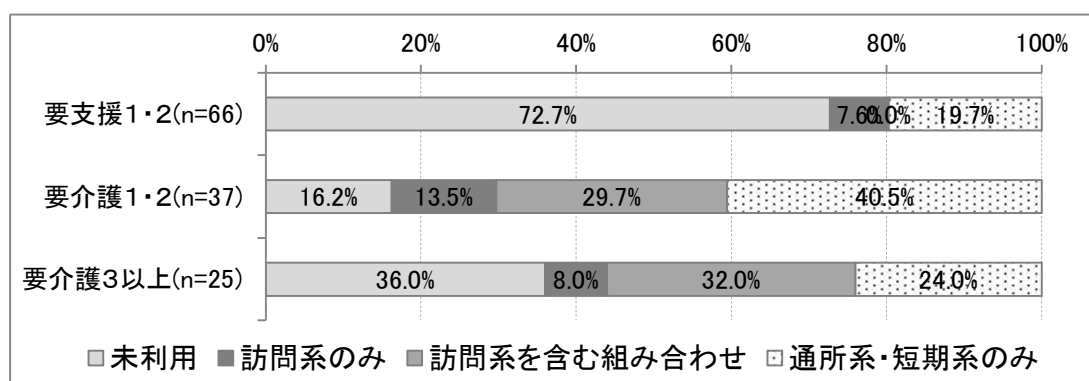
図表 4-6 要介護度別・家族等による介護の頻度（その他世帯）〈***〉



【要介護度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「未利用」が72.7%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が19.7%、「訪問系のみ」が7.6%となっている。「要介護1・2」では「通所系・短期系のみ」が40.5%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が29.7%、「未利用」が16.2%となっている。「要介護3以上」では「未利用」が36.0%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が32.0%、「通所系・短期系のみ」が24.0%となっている。

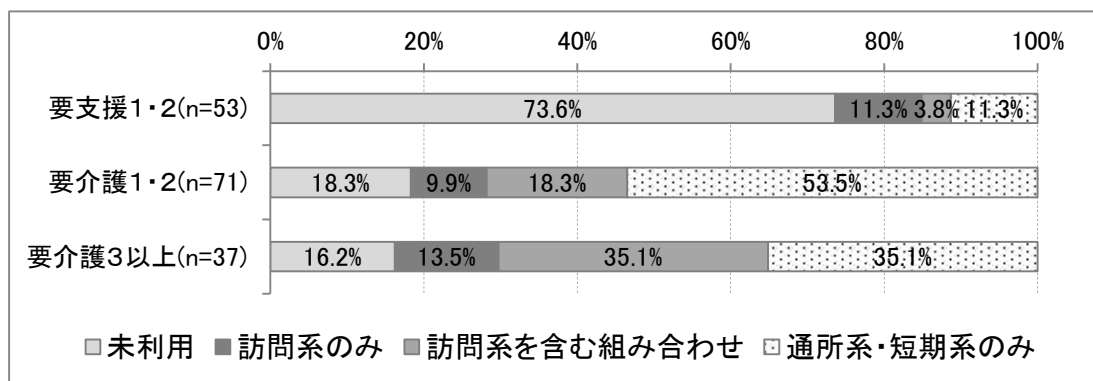
図表 4-7 要介護度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）〈***〉



【要介護度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「未利用」が73.6%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系のみ」、「通所系・短期系のみ」が11.3%、「訪問系を含む組み合わせ」が3.8%となっている。「要介護１・２」では「通所系・短期系のみ」が53.5%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」、「訪問系を含む組み合わせ」が18.3%、「訪問系のみ」が9.9%となっている。「要介護３以上」では「訪問系を含む組み合わせ」、「通所系・短期系のみ」が35.1%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が16.2%、「訪問系のみ」が13.5%となっている。

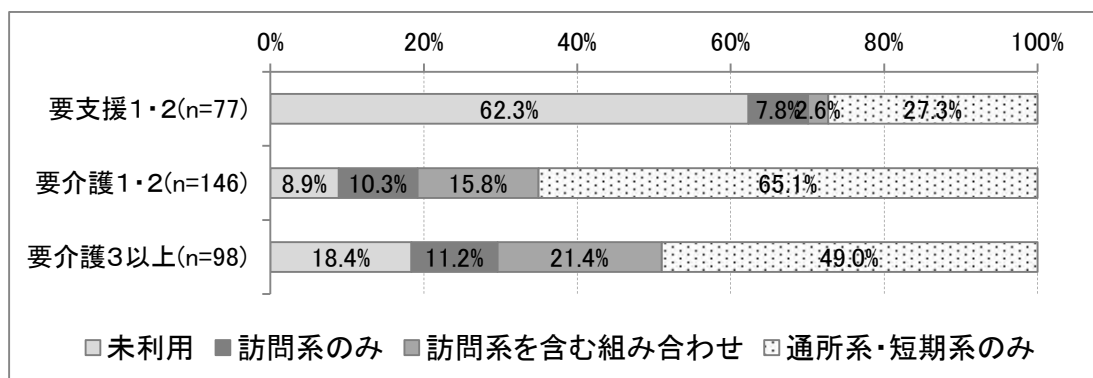
図表 4-8 要介護度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）〈***〉



【要介護度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「未利用」が62.3%ともっとも割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が27.3%、「訪問系のみ」が7.8%となっている。「要介護１・２」では「通所系・短期系のみ」が65.1%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が15.8%、「訪問系のみ」が10.3%となっている。「要介護３以上」では「通所系・短期系のみ」が49.0%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が21.4%、「未利用」が18.4%となっている。

図表 4-9 要介護度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）〈***〉

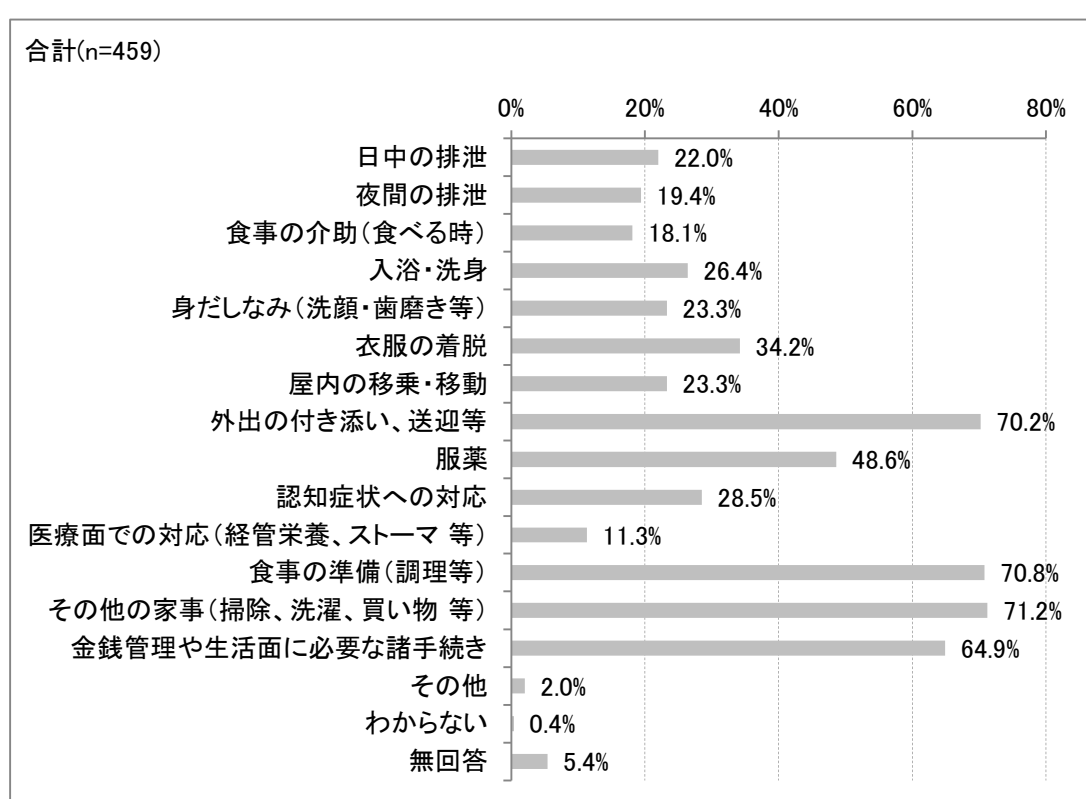


5 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の 検討 関係

【問B 5】 主な介護者が行っている介護

「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」の割合が最も高く 71.2%となっている。次いで、「食事の準備（調理等）（70.8%）」、「外出の付き添い、送迎等（70.2%）」となっている。

図表 2-5 ★主な介護者が行っている介護（複数回答）

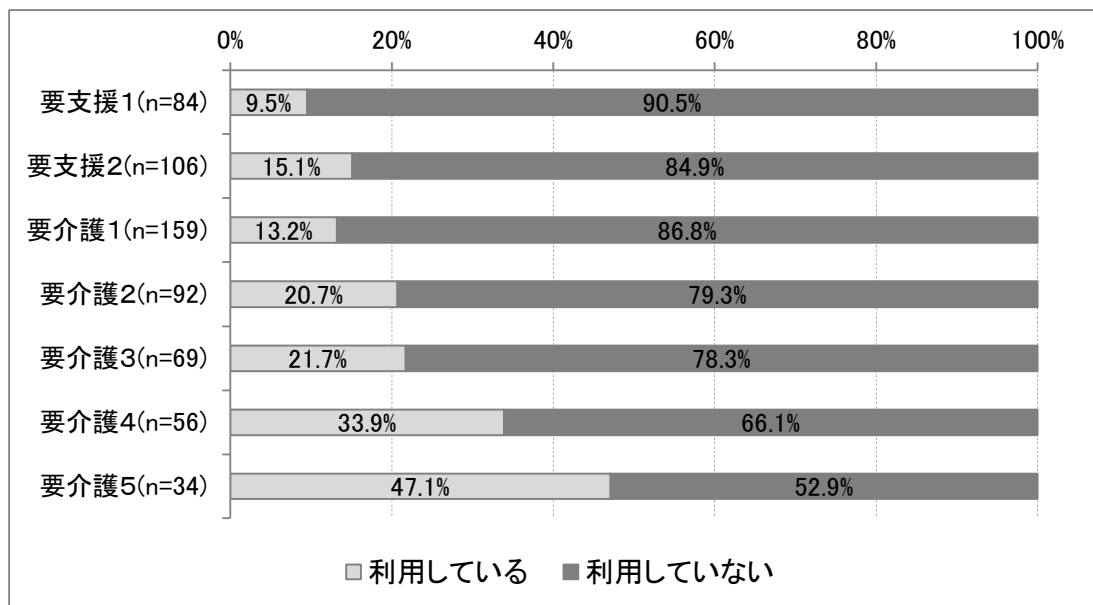


【要介護度別・★訪問診療の利用割合】

訪問診療の利用の有無を二次判定結果別にみると、「要支援1」では「利用していない」が90.5%と最も割合が高く、次いで「利用している」が9.5%となっている。

「要支援2」では「利用していない」が84.9%と最も割合が高く、次いで「利用している」が15.1%となっている。「要介護1」では「利用していない」が86.8%と最も割合が高く、次いで「利用している」が13.2%となっている。「要介護2」では「利用していない」が79.3%と最も割合が高く、次いで「利用している」が20.7%となっている。「要介護3」では「利用していない」が78.3%と最も割合が高く、次いで「利用している」が21.7%となっている。「要介護4」では「利用していない」が66.1%と最も割合が高く、次いで「利用している」が33.9%となっている。「要介護5」では「利用していない」が52.9%と最も割合が高く、次いで「利用している」が47.1%となっている。

図表 5-6 要介護度別・★訪問診療の利用割合<***>



【★訪問診療の利用の有無別・サービス利用の組み合わせ（要介護3以上）】

サービス利用の組み合わせを訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では「訪問系を含む組み合わせ」が46.0%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が24.0%、「通所系・短期系のみ」が18.0%となっている。「利用していない」では「通所系・短期系のみ」が49.5%と最も割合が高く、次いで「未利用」が26.6%、「訪問系を含む組み合わせ」が16.5%となっている。

図表 5-7 ★訪問診療の利用の有無別・サービス利用の組み合わせ（要介護3以上）

